



## 旧町の垣根を越えて

稲村浩宣さん(NPO伊豆の国ルネサンス 代表)

国や県の支援を受けるには、『法人格』という受け皿が必要です。観光協会と協同して、伊豆長岡温泉を中心とした市内宿泊客に、葦山地区・大仁地区の歴史や農業などの観光資源を結びつけ、旧町の垣根を取り払いたいです。

市内の各種団体とも連携しながら、激変する観光ニーズに対応していきたいと思えます。

伊豆ルネサンスは、平成18年12月、観光協会機能を補完するNPO(特定非営利活動法人)団体として設立。平成19年3月に法人認証取得。

**パン祖のパン祭**  
日本におけるパンの生みの親と言われる江川垣庵公にちなみ、今年一月に初めて開催された『パン祖のパン祭』。会場となったアクシスかつらぎには、たくさんの方が訪れ、全国の有名パン屋さんの出店販売には人垣ができました。会場入口には田方農業高校の生徒による巨大なパン反

射炉オブジェが登場。また、メイン行事として、全国高校生パンコンテストが二日間にわたり行われ、特産のイチゴ『紅ほっぺ』を使用したイチゴパン作りししのぎを削りました。開催期間中は、全国から集まった参加者で、温泉街は昼夜ともに、にぎわいを見せました。



会場を訪れた人を驚かせた巨大なパン反射炉オブジェ。

歴史ガイドの一人・迫田信行さんと観光シャトルバス



も、きつと新しい発見があると思います。乗車賃も一人五百円とお得です。(※各施設の入館料は別途必要)シャトルバス問い合わせ伊豆の国観光協会 電話055(948)0304

**芸妓応援団 芸妓まつり**  
伊豆長岡温泉の芸術文化の保存・継承を指し、平成十八年六月に住民有志が『芸妓応援団(佐藤三武朗応援団長)』を立ち上げました。また同年九月、十月には、初の試みとして伊豆長岡温泉芸妓連による『秋の舞い』を五日間連続で開催。日本文化の華たる芸者衆の力を借りて、伊豆の国市の活性化を目指します。



秋の舞いステージより

# 新しい取り組み

合併してからスタートした、新しいイベントや取り組みの数々。皆さんはご存じですか?その一部を紹介します。

## 安全・安心・健康のまちづくり



初収穫した試験栽培の中国秋野菜

安全・安心・健康のまちづくりとは、農業、観光、環境の三部門が協同することで、市内の生ごみや家畜の排泄物から再生した肥料を、野菜等の農作物生産に利用し、できたものは地元で消費する、という『地産地消』の構想です。昨年度は、六月から市内で中国野菜を試験栽培し、十一

月に秋野菜を初収穫。伊豆長岡調理師会メンバーによる和風・中華風の趣向を凝らした創作料理の試食会を行い、参加した委員らには、『おいしい』と好評でした。市では、今後も『医食同源』の考えに基づき、食からの健康を市民や観光客に提供するまちづくりに取り組んでいきます。

## 下駄ダンス コンテスト

伊豆長岡温泉の名物イベント『下駄マラソン』に代わる新しい試みとして始まった『下駄ダンスコンテスト』。内容は、下駄を履いて三分間のパフォーマンスを競うというもので、下駄さえ履いていればダンス・音楽のジャンルは問わない自由なルール

が、あらゆる年代のダンス愛好家を奮い立たせました。当日は、下駄を履き、色とりどりの衣装に身を包んだ参加者が県内外から二十五チーム集まり、卓越したダンス合戦で、会場は大いに盛り上がりました。

優勝した御殿場のE DOTs



## やる気、元気、活気

加藤寛治さん(伊豆の国市商工会 会長)

合併してひとつになっても、支部を設置し、事業者には今まで以上のきめ細かいサービスをしていきたいですね。新規開業を目指す若い起業家には、税金等の相談にのれるし、既存企業にも、新しいことにチャレンジする『経営革新』を支援します。

個人経営者にとって厳しい時代ですが、カラ元気でもいい、とにかく元気を出してもらいたいです。

伊豆長岡町、葦山町、大仁町の3商工会が、平成19年4月1日に合併し、伊豆の国市商工会として新たにスタート。

